

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 九州財務局長

**【提出日】** 平成25年8月12日

**【四半期会計期間】** 第35期第1四半期(自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)

**【会社名】** 株式会社ヒガシマル

**【英訳名】** HIGASHIMARU CO.,LTD.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 東 紘一郎

**【本店の所在の場所】** 鹿児島県日置市伊集院町猪鹿倉20番地

**【電話番号】** 099-273-3859 (代表)

**【事務連絡者氏名】** 管理部長 木通 昌生

**【最寄りの連絡場所】** 鹿児島県日置市伊集院町猪鹿倉20番地

**【電話番号】** 099-273-3859 (代表)

**【事務連絡者氏名】** 管理部長 木通 昌生

**【縦覧に供する場所】** 証券会員制法人福岡証券取引所  
(福岡市中央区天神二丁目14番2号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次 会計期間	第34期 第1四半期 連結累計期間		第35期 第1四半期 連結累計期間		第34期	
	自 至	平成24年4月1日 平成24年6月30日	自 至	平成25年4月1日 平成25年6月30日	自 至	平成24年4月1日 平成25年3月31日
売上高 (千円)		1,632,318		2,380,962		8,211,025
経常利益 (千円)		33,078		83,115		269,197
四半期(当期)純利益 (千円)		31,502		43,527		265,686
四半期包括利益又は包括利益 (千円)		8,650		70,301		493,142
純資産額 (千円)		4,427,526		4,961,949		4,929,288
総資産額 (千円)		8,571,208		11,278,899		10,606,682
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)		6.70		9.25		56.47
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)						
自己資本比率 (%)		51.7		44.0		46.5

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。  
2 売上高には、消費税等は含まれておりません。  
3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社及び当社の関係会社において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

なお、当社は、当第1四半期連結会計期間末日後の平成25年7月31日開催の取締役会において、株式会社向井珍味堂の株式取得及び子会社化について決議し、同日付けで株式譲渡契約を締結いたしました。詳細は、「第4 経理の状況」「1 四半期連結財務諸表」「注記事項」（重要な後発事象）に記載のとおりであります。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社、以下同じ。）が判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済対策・金融政策等の効果や期待感を背景に、円安により輸出は回復基調で推移し、株価の上昇が資産効果を通じて個人消費を押し上げるなど、一部に景気回復の兆しが見られました。しかし、海外経済の停滞や新興国の緩慢な動きによる景気下振れリスクもあり、雇用・所得環境は依然として厳しいことに加え、今年5月下旬以降は一部不安定な金融市場となっており、先行き不透明な状況が続いております。

このような状況のなか、当社グループを取り巻く事業環境は、主原料（魚粉・小麦粉）価格の高騰や、燃料、石油関連資材、電気料金及び販売輸送費の値上がりの影響を受けております。また、消費者の節約・低価格志向が根強いことなどから、企業間の競争も引き続き厳しい経営環境で推移いたしました。

こうした環境の下、当社グループは市場動向を見極めながら積極的な販売活動を展開するとともに、効率性及びコスト削減に努め、売上成長を模索しながら利益重視の経営に取り組んでまいりました。また、前第2四半期連結会計期間末からコスモ食品株式会社が加わり、売上及び利益に貢献しております。

その結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高は23億80百万円と前年同四半期と比べ7億48百万円（45.9%）の増収、営業利益は65百万円（前年同四半期は営業損失2百万円）、経常利益は83百万円と前年同四半期と比べ50百万円（151.3%）の増益、四半期純利益は43百万円と前年同四半期と比べ12百万円（38.2%）の増収となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

## 水産事業

水産事業におきましては、南米におけるカタクチイワシの水揚げが低水準で推移したことにより、養魚用配合飼料の主原料（魚粉）価格が高騰しております。この原料価格の高騰を受け、配合飼料販売価格の値上げ交渉を進めてまいりました。

このような状況のなか、クルマエビ飼料類は生産物相場が良好であり、値上げ交渉も順調に進んだことから売上が増加しました。また、魚類用配合飼料は、値上げ前の駆け込み需要などがあったことからマダイ・ハマチ飼料類等の売上が増加した結果、売上高は16億19百万円と前年同四半期と比べ4億4百万円（33.3%）の増収となりました。セグメント利益は54百万円と前年同四半期と比べ11百万円（17.6%）の減益となりました。

## 食品事業

食品事業におきましては、小麦粉の値上げが6月に実施されたことに加え、依然として消費者の節約・低価格志向が根強く、企業間の競争が続き厳しい経営環境で推移いたしました。

このような状況のなか、平成24年7月に子会社化し、前第2四半期連結会計期間末から連結範囲に含めたコスモ食品株式会社におけるカレールー及びジャム等の販売が好調に推移いたしました。また、テレビコマーシャルを放映するなど販売強化に努めてまいりましたが、即席ラーメンは価格競争や他社大手メーカーの新商品の販売攻勢を受けるなどしたことから低調に推移しました。乾麺類（そうめん・うどん・そば）は、取扱店舗の拡大およびプライベートブランドの売上が好調に推移したほか、主力の皿うどん類についても業務用商品及び市販用商品のリニューアルで売上が増加した結果、売上高は7億61百万円と前年同四半期と比べ3億43百万円（82.4%）の増収となりました。セグメント利益は77百万円と前年同四半期と比べ64百万円（528.5%）の増益となりました。

## (2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べ6億72百万円増加し、112億78百万円となりました。これは、主として流動資産の現金及び預金が1億78百万円、受取手形及び売掛金が4億79百万円増加したことなどによるものであります。

負債は、前連結会計年度末と比べ6億39百万円増加し、63億16百万円となりました。これは主として買掛金が3億51百万円、長期借入金が2億86百万円増加したことなどによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末と比べ32百万円増加し、49億61百万円となりました。これは、その他有価証券評価差額金が4百万円減少したものの、利益剰余金が5百万円、繰延ヘッジ損益が30百万円増加したことによるものであります。

## (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

本年6月27日提出の有価証券報告書に記載のとおり、先行き不透明な経済環境や企業間競争が続く厳しい経営環境のなか、当社グループ一丸となって、「企業収益力の向上」、「生産力・販売力の強化」、「研究開発の強化」、「マネジメントの改革」を推し進め、競争できる経営体質を進めてまいります。

## (4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間のグループ全体の研究開発費の総額は42百万円であります。

(5) 生産・受注及び販売の実績

生産実績

当第1四半期連結累計期間における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	金額(千円)	前年同四半期比(%)
水産事業	1,366,811	+ 25.4
食品事業	456,945	+ 55.8
合計	1,823,756	+ 31.8

- (注) 1 金額は、製造原価によっており、セグメント間の取引がある場合は相殺除去後の金額としております。  
2 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

受注実績

当第1四半期連結累計期間における受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高 (千円)	前年同 四半期比(%)	受注残高 (千円)	前年同 四半期比(%)
水産事業	485,145	+ 183.7	29,855	+ 145.4
食品事業	43,822	8.7	414	50.4
合計	528,968	+ 141.5	30,269	+ 132.8

- (注) 1 金額は、販売価額によっております。  
2 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

販売実績

当第1四半期連結累計期間における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	金額(千円)	前年同四半期比(%)
水産事業	1,619,615	+ 33.3
食品事業	761,347	+ 82.4
合計	2,380,962	+ 45.9

- (注) 1 セグメント間の取引がある場合は相殺除去後の金額としております。  
2 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は、次のとおりであります。

相手先	前第1四半期連結累計期間		当第1四半期連結累計期間	
	金額(千円)	割合(%)	金額(千円)	割合(%)
協同飼料株式会社	101,989	6.2	399,523	16.8
株式会社ヨンキュウ	283,648	17.4	283,260	11.9

- 3 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

- (注) 当第1四半期連結累計期間は、「第4 経理の状況」において四半期連結キャッシュ・フロー計算書を掲げていないため、キャッシュ・フローの状況に関する分析・検討内容は記載しておりません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	17,900,000
計	17,900,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成25年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年8月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	4,746,000	4,746,000	福岡証券取引所	単元株式数は 100株であります。
計	4,746,000	4,746,000		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成25年4月1日～ 平成25年6月30日		4,746		603,900		393,400

##### (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成25年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 40,800		
完全議決権株式(その他)	普通株式 4,705,000	47,050	
単元未満株式	普通株式 200		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	4,746,000		
総株主の議決権		47,050	

【自己株式等】

平成25年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社ヒガシマル	鹿児島県日置市伊集院町 猪鹿倉20番地	40,800		40,800	0.85
計		40,800		40,800	0.85

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成25年4月1日から平成25年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。



1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,580,048	1,758,941
受取手形及び売掛金	1,582,051	2,061,739
有価証券	75,269	78,923
商品及び製品	437,087	439,600
仕掛品	112,515	109,571
原材料及び貯蔵品	963,819	1,008,233
その他	522,909	444,675
貸倒引当金	16,276	1,726
流動資産合計	5,257,424	5,899,957
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,232,938	1,231,707
機械装置及び運搬具（純額）	639,903	735,137
土地	1,968,436	1,968,436
その他（純額）	96,079	38,005
有形固定資産合計	3,937,356	3,973,286
無形固定資産		
のれん	457,467	445,429
その他	34,355	33,679
無形固定資産合計	491,823	479,108
投資その他の資産		
投資その他の資産	962,642	990,751
貸倒引当金	42,563	64,205
投資その他の資産合計	920,078	926,546
固定資産合計	5,349,258	5,378,941
資産合計	10,606,682	11,278,899

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	534,018	885,669
短期借入金	2,343,050	2,277,540
未払法人税等	9,436	24,623
賞与引当金	113,378	75,071
その他	302,006	377,366
流動負債合計	3,301,890	3,640,270
固定負債		
長期借入金	1,755,500	2,042,000
退職給付引当金	43,195	43,829
役員退職慰労引当金	383,494	386,149
その他	193,313	204,700
固定負債合計	2,375,503	2,676,678
負債合計	5,677,394	6,316,949
純資産の部		
株主資本		
資本金	603,900	603,900
資本剰余金	458,400	458,400
利益剰余金	3,807,701	3,813,588
自己株式	28,968	28,968
株主資本合計	4,841,032	4,846,919
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	41,937	37,894
繰延ヘッジ損益	46,318	77,135
その他の包括利益累計額合計	88,255	115,029
純資産合計	4,929,288	4,961,949
負債純資産合計	10,606,682	11,278,899

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
売上高	1,632,318	2,380,962
売上原価	1,357,843	1,899,742
売上総利益	274,474	481,219
販売費及び一般管理費		
運賃諸掛	75,283	99,823
貸倒引当金繰入額	-	21,641
給料及び賞与	60,453	100,596
賞与引当金繰入額	14,913	12,748
役員退職慰労引当金繰入額	1,863	2,655
その他	124,931	178,692
販売費及び一般管理費合計	277,445	416,157
営業利益又は営業損失( )	2,971	65,062
営業外収益		
受取利息	64	48
受取配当金	1,325	2,051
為替差益	37,269	13,998
雑収入	11,550	9,577
営業外収益合計	50,209	25,676
営業外費用		
支払利息	6,683	7,547
雑損失	7,476	76
営業外費用合計	14,159	7,623
経常利益	33,078	83,115
税金等調整前四半期純利益	33,078	83,115
法人税、住民税及び事業税	1,038	21,821
法人税等調整額	537	17,765
法人税等合計	1,575	39,587
少数株主損益調整前四半期純利益	31,502	43,527
四半期純利益	31,502	43,527

【四半期連結包括利益計算書】  
【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	31,502	43,527
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	9,608	4,042
繰延ヘッジ損益	9,254	30,816
為替換算調整勘定	21,289	-
その他の包括利益合計	40,152	26,774
四半期包括利益	8,650	70,301
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	8,650	70,301
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(連結の範囲の重要な変更)

前連結会計年度において連結子会社でありましたHIGASHIMARU VIETNAM CO.,LTDは、平成25年3月に清算したため、連結の範囲から除外しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

四半期連結会計期間末日(期末日)満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当第1四半期連結会計期間の末日(前連結会計年度の末日)が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日(期末日)満期手形が、四半期連結会計期間末(期末)残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
受取手形	173,876千円	77,358千円

(四半期連結損益計算書関係)

売上高の季節的変動

前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)及び当第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

養魚用配合飼料の需要は、養殖魚の成長過程に応じ、摂餌が旺盛になる夏から初冬までが多く、水温が低下し餌食いが鈍くなる冬から春は少なくなるという季節的変動があります。したがって、第1四半期連結累計期間の売上高は、第2四半期連結会計期間及び第3四半期連結会計期間と比べ低くなる傾向にあります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
減価償却費	68,103千円	70,356千円
のれんの償却額	-	12,038

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月27日 定時株主総会	普通株式	37,641	8	平成24年3月31日	平成24年6月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	37,640	8	平成25年3月31日	平成25年6月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの  
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	水産事業	食品事業			
売上高					
外部顧客への売上高	1,214,827	417,490	1,632,318		1,632,318
セグメント利益	65,829	12,287	78,117	45,038	33,078

(注)1 セグメント利益の調整額 45,038千円は、各報告セグメントに帰属しない全社費用等であり、提出会社の管理部門に係る販売費及び一般管理費45,444千円、営業外収益7,539千円、営業外費用7,133千円であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	水産事業	食品事業			
売上高					
外部顧客への売上高	1,619,615	761,347	2,380,962		2,380,962
セグメント利益	54,227	77,228	131,456	48,341	83,115

(注)1 セグメント利益の調整額 48,341千円は、各報告セグメントに帰属しない全社費用等であり、提出会社の管理部門に係る販売費及び一般管理費55,845千円、営業外収益11,864千円、営業外費用4,359千円であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
1株当たり四半期純利益	6円70銭	9円25銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益(千円)	31,502	43,527
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益(千円)	31,502	43,527
普通株式の期中平均株式数(千株)	4,705	4,705

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### (重要な後発事象)

##### 連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得

当社は、平成25年7月31日開催の取締役会決議及び同日付けで締結した株式譲渡契約に基づき、平成25年7月31日付けで株式会社向井珍味堂の全株式を取得し、同社を連結子会社といたしました。

##### 取得による企業結合

###### (1) 企業結合の概要

###### 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 株式会社向井珍味堂

事業の内容 殻粉・香辛料等、香り豊かな粉末商品の製造販売

###### 企業結合を行った主な理由

当社グループの食品事業にこれまでにない独自開発による製造技術、風味を損なわない新しい殺菌・殺虫技術のノウハウと、高付加価値商品の開発、マーケティング手法など補完し合う相乗効果が見込まれると判断したことによるものであります。

###### 企業結合日

平成25年7月31日

なお、第2四半期連結会計期間末(平成25年9月30日)を支配獲得日とみなし、処理いたします。

###### 企業結合の法的形式

現金を対価とする全株式の取得

###### 結合後企業の名称

名称の変更はありません

###### 取得した議決権比率

100%

###### 取得企業を決定するに至った主な根拠

現金を対価とした株式取得により、当社が同社の議決権の100%を取得し支配を獲得するに至ったことによるものであります。

(2) 被取得企業の取得原価及びその内訳

取得の対価	株式会社向井珍味堂の普通株式	500,000千円
取得に直接要した費用	アドバイザー費用等	60,732
取得原価		560,732

(3) 資金調達の方法等

所要資金につきましては、自己資金及び借入金により賄っております。借入金の内容は以下のとおりであります。

借入先	借入金額(千円)	借入日	返済方法	返済期日	担保
みずほ銀行	435,000	平成25年7月30日	期日一括	平成25年8月30日	無

2 【その他】

該当事項はありません。



## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年8月9日

株式会社ヒガシマル  
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 川 畑 秀 二 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 只 隈 洋 一 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ヒガシマルの平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成25年4月1日から平成25年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ヒガシマル及び連結子会社の平成25年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 強調事項

重要な後発事象に記載されているとおり、会社は、平成25年7月31日開催の取締役会決議及び同日付けで締結された株式譲渡契約に基づき、株式会社向井珍味堂の全株式を取得し、同社を連結子会社とした。当該事項は、当監査法人の結論に影響を及ぼすものではない。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。  
以 上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。